

洞林寺護持会会報

錦 糺

令和五年お盆・秋彼岸合併号(通算164号)



太祖瑩山禪師様の 七百回大遠忌

洞林寺住職 吉田俊英

1、曹洞宗の一佛両祖と大遠忌

曹洞宗ではお釈迦様（釈迦牟尼仏）を本尊と定めております。お釈迦様は仏教の開祖であり、我々一切衆生の行く道を照らし正しい道に導いてくださった大恩教主なのです。そして、曹洞宗の誕生と発展の礎となった永平寺開山道元禪師様と總持寺開山瑩山禪師様を両祖と仰ぎ、お釈迦様と共に一佛両祖と呼んで宗門信仰の根幹として尊崇しております。

道元禪師様はお釈迦様から代々祖師方が受けつがれた仏教の真髄（禪の教え）を中国から日本に将来し、興聖寺や永平寺で弟子を育成し正法をお広めになりました。道元禪師から四代目に当たる瑩山禪師様は道元禪師の教えを弟子たちにしつかりと伝え、人材育成に努められ、全国に曹洞宗の教えを広める礎となりました。曹洞宗の教えの根本を伝えられた道元禪師は教団の父であり、高祖と尊崇されております。曹洞宗は単独の教団としては日本一の寺院数と檀信徒を有します。曹洞宗という教団の基礎を

築かれた瑩山禪師様は教団の母とも言える御方であり、太祖と尊崇されております。

仏教の各宗派では其々の宗派を開かれたお祖師さまなどの五十年五ごとの年回忌法要を大遠忌と呼び、宗派挙げての特別な法要を行います。曹洞宗では、福井の永平寺を開いた道元禪師と總持寺を開いた瑩山禪師、そして、それぞれのお弟子で永平寺第二代懷辨禪師、總持寺第二代峨山禪師の四人の方々の五十年ごとの回忌を大遠忌法要としてお勤めし、全国から多くの僧侶檀信徒が参拝されます。令和六年四月に大本山總持寺に於いて、太祖瑩山禪師様の七百回大遠忌法要が厳修されますが、既に今年から予修法要が始まっております。

2、瑩山禪師の御生涯

瑩山紹瑾禪師は、文永元年（一二六四）、越前の国、多禰郡の豪族瓜生邸に誕生されました。熱心な観音信者の母に育てられた禪師は、三歳にして観音様の前で「ナムナム……」と唱えて拝み、五歳頃には土をこねて仏像をつくったり、経を読み、「観音様の生まれ変わり」と評判になりました。母親の深い信心を受け継ぎ、八歳の春、永平寺へ登り、三世徹通義介禪師のもとで沙



總持寺開山 太祖瑩山禪師様

弥（ひな僧）となり、十三歳になると永平寺二世孤雲懷辨禪師に随いて得度式（正式出家）を挙げ、幼名行生を紹瑾に改め本格的な修行に励まれました。

以来、本師徹通禪師に従って宗義を学び、仏経祖録の研鑽を積み、諸国を行脚して臨済・曹洞の禪を学び、比叡山では天台教学を修し、二十一歳の時永平寺に戻られました。その後、師の徹通禪師に随って金沢の大乗寺に移り、寺門興隆と民衆布教に専念されました。徹通禪師の後を嗣ぎ大乗寺で禪風を揮い、たくさんの弟子を育て教線の拡張をはかりました。一三二一（元亨元年）夢のお告げに導かれ、能登の真言寺



大本山總持寺 大祖堂

院であった諸獄寺を受け継いで曹洞宗總持寺として開創されました。瑩山禪師様は、正法を広め曹洞の宗旨を布演することに全生涯を投じ、正中二年（一三二五）九月二十九日、六十二歳で亡くられました。

3、民衆と共に歩まれた瑩山禪師

瑩山禪師様の生涯を貫くもの、それは慈悲と報恩という言葉に尽きます。禪師は、

幼い頃より「観音菩薩の申し子」と称されました。またそのご生涯は、実際に観音さまのように、差別なく、あらゆる人の苦しみを憂い、すべての人の幸せを祈り続ける慈悲行に徹した方でした。坐禅においても、「慈悲の想いを忘れてはいけない」と説かれておられます。

瑩山禪師様は当初は気性の激しい面もあつたそうです。禪師様が宝慶寺の寂円禪師様のもとで修行されていた時、寂円禪師様は瑩山様の力量を認めて維那という指導監督するお役目を与えました。或る日、修行僧の一人が自分の悪口を言っているのを聞き、ついカッとなって、その修行僧を罰しようとしたところ、にわかにも母の顔が浮かび、そしてハッとお気づきになります。

「自分は母の信仰と願いを受け継ぎ、人々を教え導くということが本願である。ここで怒りに負けてしまったら、その本願は虚しいものになってしまう。これから、決して怒りの心を起さすまい。」

そう誓った瑩山様は、実に穏やかな性格になったそうです。「母がいつも観音様にお祈りをささげていてくれたお蔭である」と『洞谷記』の中に書かれています。

そして、この慈悲の心の顕現として「すべての人びとの苦しみ、悲しみを我がものとして、未来永劫最後のひとりに至るまでお救い続けたい。」という誓願を何度もさらせてます。瑩山様は人々が日々安心して暮らせるよう、祈雨・治水・豊作等の祈願法要も積極的に勤めておられます。

瑩山禪師様は道元禪師様や師匠徹通禪師様への報恩感謝に努めて修行に励まれる方でした。同時に檀越（檀信徒）への感謝の気持ちも何度も表明されて居られます。

「信仰の篤い人を得ることができれば、仏法がすたれることはない、お釈迦さまは言われた。」「私の仏法修行は檀信徒の信心のお陰で成就する。」と報恩感謝の言葉を語っておられます。禪師は、檀信徒の信仰の心を仏教伝道の上で最も大切なものとして位置付けておられました。信仰の心の源は檀信徒の「報恩の心」です。禪師様の時代でも現代でも大切にしたい心です。

十一月二十八日、曹洞宗宮城県第二教区で大本山總持寺に参拝し、太祖瑩山禪師様にお焼香させていただきま。太祖様の教えと心を受け継ぐ気持ちでお焼香させていただきます。

第二教区護持会総会のご報告

護持会副会長 横田 俊明

去る六月二十六日（月）、曹洞宗宮城県第二教区護持会の総会が北山の輪王寺において開催されました。洞林寺護持会を代表して出席させていただきました。今年はコロナ感染も一段落したという判断で、三年振りに通常の形式で総会が開催されました。例年は仙台サンプラザでの総会開催でした。

が、会場の都合もあって特派布教道場の会場である輪王寺様での開催となりました。総会の議題は左記の通りでした。

- (1) 令和4年度の行事、決算報告について
- (2) 監査報告
- (3) 令和5年度行事、予算案について
- (4) 教区護持会 研修旅行について
- (5) 秋の護持会講演会について
- (6) 役員改選
- (7) その他

其々審議され、問題なく承認されました。

その中で、研修旅行についてお知らせいたします。今回の研修旅行は第二教区挙げての団参です。太祖常済大師七百回大遠忌団参として大本山総持寺を参拝致します。屋形船での東京湾クルーズと夕食、日光東照宮特別参拝などを予定しております。今回は教区寺院会や新寺の組寺会等からの多大なご支援をいただき、旅費はかなり格安な特

別料金になっておりますので早めに、洞林寺までにお申し込みください。

私も東京で勤務していた時代、屋形船に乗り夜景を楽しみながら東京湾を遊覧した経験があります。とても楽しい思い出として記憶に残っております。

尚、秋の研修会は、東北福祉大学の千葉公慈学長を講師に予定しております。詳しくは別記事をご参照下さい。

ブラジル人のお客様

吉田 ふく子

七月二十二日の土曜日の夕方、日系ブラジル人で、サンパウロ大学教授の佐藤ローザ由香先生が洞林寺に来られました。JICA支援による介護研修のため、大学の教え子や介護士を引率して横浜と仙台に二週間の滞在だそうです。そういう忙しい日程の中洞林寺に寄ってくださいました。以前にも会報に書いたことがありますが、由香先生の御両親藤右一様ご夫妻は先住吉田道彦和尚と同じ移民船でブラジルに渡った方です。そういう御縁のある方です。教え子さんたちは仙台での休日を楽しんでいるようですが、由香先生は川崎町の御



相承

— 大いなる覚悟がこえますか —



大祖堂 写真イメージ

太祖瑩山紹瑾禅師700回大遠忌

大本山總持寺参拝と東京・屋形船と日光特別参拝

◆旅行期日/令和5年11月28日(火)~30日(木) 【2泊3日】

◆旅行代金/70,000円

◆募集人員/60名 (最少催行人数30名) ○添乗員同行

◆申込/下記申込書にご記入の上、教区長(大林寺)へお申込下さい。

◆締切/令和5年8月末日

●添乗員同行 ●東日本急行バス利用/バスガイド同行

期日	行	程
11/28 (火)	6:45 仙台駅東口	宮城1.C — 《東北自動車道》 — 11:15 舟倉 (蓮田SA)
	13:00	14:00 16:10 18:30 ~ 21:00 21:20
	— 大本山總持寺大遠忌法要参拝 — 東京・屋形船 東京7リマックス(泊)	
11/29 (水)	8:50 舟倉	《東京都内観光》 東京97・浅草(浅草寺) 皇居外苑
	— 川口1.C — 宇都宮・今市1.C — 鬼怒川温泉(泊)	
11/30 (木)	8:30 鬼怒川温泉	《世界遺産》 日光東照宮 特別祈禱参拝 日光 白丸
	— 今市・宇都宮1.C — 《東北自動車道》 — 宮城1.C — 仙台駅東口	

本出発日の昼食より帰着日の昼食までご利用致します。【朝食2回・昼食3回・夕食2回】

1日目宿泊 東京プリンスホテル (2名1室洋室)

2日目宿泊 日光きぬ川ホテル (4~5名1室和室)

●みどころ

50年に1度の大法要
登山禪師大遠忌参拝

●東京 都内
江戸風情屋形船(夕食)
夜更もお楽しみ頂けます
東京タワー・浅草寺

●日光東照宮特別参拝
世界遺産の東照宮を
巡視様がご案内し、
ご祈禱後には香殿にて
写真がはいり記念品の
贈呈がございます

旅行企画

宮城県第二教区・第二教区護持会

新寺 十五日会 北山一圓会

(教区長) 大林寺 仙台市若林区新寺4-7-6 ☎ 022-256-0811

企画旅行・ツアー

宮城県東部観光旅行業2-155号

(株)ピーエストラベル

仙台市青葉区昭和町2-23-204 ☎ 022-234-8601

取扱旅行種別/在々木 船泊/在々木

- 4 -



サンパウロ大学 佐藤ローザ由香教授

両親の実家のお仏壇をお参りし、洞林寺の道彦和尚と「海外移住物故者諸精霊」のお位牌にお線香を手向けて下さいました。

夕食を一緒に食べながら、家族のことや思い出を語り合いました。つい先日、サンパウロ市で村井宮城県知事等を迎えてブラジル宮城県人会七十周年記念式典が開催されましたが、其の時の様子を教えていただきました。

「仙台にきたら、洞林寺さんに行きたい。」
そう言うって、訪れて下さるブラジルの関係

者が居ることを先住道彦和尚も喜んで下さっていると思います。移民船の中でも、ブラジル在住の時も、先住はどんな方にも笑顔で接してきた方でした。そういう御縁が今回の由香先生の訪問にも繋がっていると思います。

七月二十六日には、ブラジル人の曹洞宗僧侶であるフェルナンド浄賢さんが洞林寺に来て下さいました。フェルナンドさんは日系の方ではありません。でも和太鼓演奏のグループに居て宮城県人会館を練習場に借りるようになった御縁から宮城県人会青年部会員になったそうです。また禅に興味を持ち十四歳から坐禅会に参加し、二十一歳の時曹洞宗南米総監部の采川総監老師の弟子となりました。ローランジャ佛心寺五十五周年法要のためブラジルに行った際サンパウロの宮城県人会館でお会いしたことがありました。日本に来て、可睡斎専門僧堂そして大本山總持寺僧堂で修行されました。今年の三月まで曹洞宗総合研究センターの教化研修部門で孫の尚英と一緒に研修しておられました。若いブラジル人僧侶がうちの孫と一緒に布教教化を学んでいる姿を先住はどう見ているんだろうか、と思うと目頭が熱くなりました。



フェルナンド浄賢師（前列 中央）
国分尼寺徒弟 小枝崇徳師（前列左）

先住が亡くなって四十年になりますが、ブラジルの若い方々とも新たなご縁が繋がってきていることを嬉しく思います。

懐かしの昭和の記憶シリーズ No.6

カッコウ塔

伊藤 眞一郎

東北の玄関口仙台駅前西口に仙台を訪れる観光客歓迎シンボルモニュメントとして一九六三年カッコウ塔が作られた、一九七七年ペDESTロリアンデッキを作るために撤



仙台駅 旧駅舎

去されるまで、三十分おきにカッコウの声が駅前空に響いていた。

当時を知る仙台市民には、あの愛くるしい姿と声を懐かしく思い出される事でしょう。撤去後は破棄される予定でしたが、原町商店街で貰い受けたが使い道が分から



現在のカッコウ塔

ず、二十一年間保管されていましたが、一九九八年宮城野区原町二丁目の公園に設置され甦り余生を送ることに成った。

因みに仙台の花はハギ、木は樺、虫は鈴虫で鳥はこのカッコウ、仙台市健康都市宣言十周年の一九七一年 市民投票により決定しました。時代を知る仙台市民の皆様は昔を懐かしみ、カッコウ公園立ち寄られては如何でしょうか。

永平寺修行回想記 其の二十三

洞林寺副住職 吉田彦英

・侍真寮での夏

新緑の季節も終わり梅雨の季節を迎えました。永平寺は深山幽谷、湿気の溜まりやすい谷に位置しています。以前一年目の際

湿気のことについて記述しましたが、侍真寮は永平寺でも最深部に位置し山々に近い為特に湿気が酷い場所でした。承陽殿は床が石畳で出来ていますが、石畳の間から水分がでてきます。その水分が石畳につき暑さによって湿気が殿内にこもります。殿内馴らしや公務の際でもちよつとした動きでも汗が噴き出しました。

汗をそのまま垂れ流しながら活動する訳にもいかないので、修行僧は常時袂にタオルを入れていきます。そのタオルで汗を拭うわけですが、湿気の酷い日は二、三回とタオルを変えなければなりません。また法要中でも汗は垂れてくる場面がでてきますが、手で顔を隠しながら汗を拭う暗黙の作法がありました。露骨に拭う仕事を他の人に見せない、気遣いの気持ちを感じました。

・虫との闘い

また夏になると蝉が鳴くようになりますが承陽殿の周りでも蝉が大合唱をするようになりました。

朝、夕方はヒゲラシの「カナカナカナ」と心地よい鳴き声が聞こえてきます。ただ日中はミンミンゼミの「ミン、ミンミン

◎原稿募集

皆様のお便りをお待ちしております。

身近かなニュース、心境などどうぞ
お寄せ下さい。

ミンミンミンミン、ミー」とクマゼミのひたすらに「ジー」という鳴き声がとても不快に感じました。同安居達と「蟬も生きてるといってもより一層暑く感じるよね。ほどほどにしてくれよ…」と嘆きの談話をしたのも記憶に残っています。

また、それだけの自然ですので蟬以外の虫も我々の修行を妨害してきます。特に蚊は最大の敵と言っても過言ではありません。特に蚊。特に坐禅中、修行僧は蚊に美味しい血をプレゼントしています。坐禅堂での坐禅



承陽殿に通じる承陽門

中は基本的に動いてはいけません。また蚊にとつて動かない坊主頭は最高の環境なようで、誰もが聞くあの羽音が聞こえてきます。坐禅中ですから手で振り払うわけにもいかず、勿論パンと手で叩くわけにもいきません。堂内は少しの音でも響くので変な動きや音に古参和尚さんに気づかれ怒られる可能性があります。内心（あ、蚊が頭にて血吸われてるな）と感じることが多々ありました。一応蚊取り線香が堂内でも焚かれていましたが、案の定帰寮すると頭にいくつか刺され跡があり、キンカンを塗って対処しました。同安居達も刺されていて、みんなで蚊取り線香焚いても意味無いよねと口を揃えて愚痴をこぼしていました。

※虫が苦手な方はこちらの内容は飛ばしてください。

また永平寺は山の中なのであらゆる虫が大きいです。ボールペン程ある長さのムカデが歩いていた時は衝撃を受けました。古参和尚から聞いた話では、昔就寝中ムカデに刺されて足がかなり腫れた人がいたらしいとのことでした。



夏の永平寺は濃い緑に包まれます

また夜、尿意があつて目が覚めたときがありました。東司で用を足していると天井で何かが動いている気配がありました。暗い中、目をこらしてみると全長9cmほどの足の長い蜘蛛がいました。あまりにもビツクリして声が出かけそうになりましたがこらえて、一目散に布団に戻ったことが印象

に残っています。

・二年目のお盆

一年目はお経点検を通過し師寮寺補佐の為洞林寺に戻ることができましたが、侍真寮ではよっぽどのことでは無い限り他出は許されませんでした。他出していく同安居達を見る永平寺留守番組は吐息を漏らしながら「いいなあ」と口を揃えて言っていました。とともにそれはそれで改めて残っている者同士結束して頑張っていこうとやる気も芽生えたのが思い出に残っています。

(次回に続きます。)

「雨ニモマケル

暑サニモマケル」

佐々木 ひろし

宮沢賢治さんの詩のような丈夫なカラダも精神もモチアワセルコトもないこの私には、今年の夏の暑さの表現することばの多さには驚いた。昔から夏のすごしかたを考へ抜いていたのでしよう。

灼^やくる・炎^{えん}晝^{あけ}、日盛りのこと。極暑・炎暑・酷暑・大暑・猛暑、眠れぬ夜があり体を壊すことになります。

「心頭滅却すれば火もまた涼し」なんて言っていると、熱中症になって命を落すことになります。少し昔の体育の練習の時のように「水を飲むな」と言われていた時代もありました。

今までなかったような事が次々と起こりはじめております。地球的な規模の大きさで気候変動が表われはじめてます。大自然には勝てるはずはありません。

「雨にも風にも暑さにも」負けてしまう弱いひとりの人間「ひろし」です。

破壊的カルトから

身を守るために 3

— ブラインド勧誘は違法です —

洞林寺住職

護持会会報令和五年新年号で、「旧統一教会が正体を隠して伝道したことは違法である」旨の判決が出ていることをお伝えしました。既に説明しましたが、破壊的カルトには破壊的商業カルトと呼ばれるものがあります。マルチ商法がこれに該当します。

マルチ商法とは、会員が新規会員を誘い、その新規会員が更に別の会員を勧誘する連鎖により、階層組織を形成・拡大する

販売形態のことを言います。商品やサービスを販売する形態をとっていますが、実質的にはネズミ講と同様の場合が多いのです。相手の自由を奪いマインドコントロールして「必ず儲かると言って、商品を買わせ、更に会員を勧誘させる」のです。

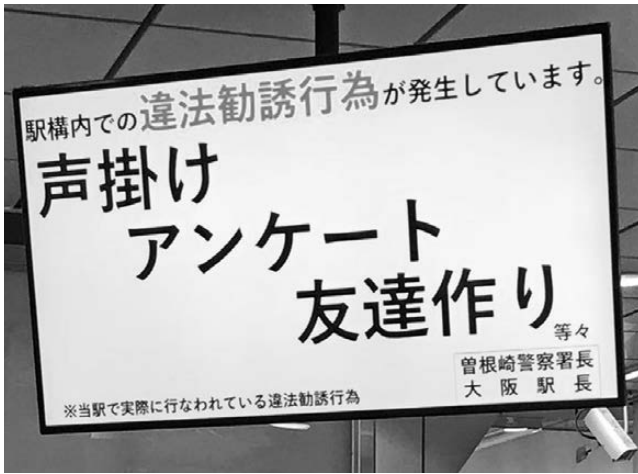
其の勧誘の手口は、ブラインド勧誘と言われています。自分の正体を隠し、勧誘目的を隠して入会や商品購入を誘うことです。その勧誘は、まず先輩や同級生や元同僚などが「会わないか？」と連絡してくるところから始まります。

「久しぶり！あなたに教えてあげたい話があるの。積もる話もあるし、お茶しましょう♪」

「すごい人のセミナーが聞けるから一緒に行こう！こんなチャンスめったにないよ！」

「すごく素敵な人に出会って人生変わったの！あなたにも会わせてあげたいんだ。」
「投資の勉強してるんだけど、すごくためになるからセミナーと一緒に勉強しよう！」

こういう手口に騙された人も多いようで



不法な勧誘行為への注意喚起

す。今年五月、暗号資産に関連するマルチ商法を展開していた「マーケットピーク」のグループが摘発され、幹部が逮捕されました。暗号資産の値上がりによる利益と紹介者への謝礼で「儲かる」と謳って若い人々を勧誘し、多くの被害者を生み出しました。

東京や大阪の主要駅で「近くに美味しい居酒屋あったら教えてくれませんか?」「社会人サークルに興味ありませんか?」

「LINE交換しましょう。」という声を掛けてる二人組が多数いるそうです。事業家集団「環境」というマルチ商法グループの手先です。左記のように誘います。

「現状に満足しているの?金持ちになろう。」

「起業について凄い師匠の話聞きに行こう。」

「入会して、師匠の指導を受けて儲けよう。」

入会すると、毎月高額な会費を騙し取られてます。大学生がカモにされているそうです。御家族が被害に遭わないよう、注意しましょう。

第二教区護持会講演会

講師・・東北福祉大学学長 千葉公慈 老師
日時・・令和五年十一月二十一日(火)

午後三時から午後四時三十分
会場・・仙台サンプラザ クリスタルルーム

テレビ番組『ぶっちゃけ寺』でレギュラーを務めた千葉学長が、仏教をわかりやすく語ります。彼岸法要の際に、入場整理券を配布致します。入場無料です。

令和5年度 洞林寺護持会総会 議決返信結果

	議案内容	返信数	承認	承認しない
議案1	令和4年度 活動報告	248	248	0
議案2	令和4年度 会計報告	248	248	0
議案3	令和5年度 活動計画	248	248	0
議案4	令和5年度 会計予算案	248	248	0



東北福祉大学 千葉公慈学長

護持会総会に諮られた全議案は、承認されました。

◎ありがとうございます

御寄進 二十万円 石川 鈴子 様

爲 小林家先祖代々精霊

あとがき

広報幹事 伊藤 眞一郎

季節の流れは早いもので先日春彼岸で手を合わせたばかりと思っていました。今年もお盆を迎えます。このところの異常気象でいまだ経験のないゲリラ豪雨や線状降水



帯による水害、猛暑も過激で昔は精々日射病や熱射病で盥の瓜や扇風機程度で凌げましたが、今はエアコンに頼らないと生きていけない深刻な熱中症でこの先が不安。

世の中に目を向ければ我が国の世界に誇る治安国家神話の崩壊、自分の身勝手に簡単に人の命を奪ったり、額に汗して働かず楽して金を手にする闇バイトに手をそめる若者の急増や躰の出来ない親による家庭崩壊、昔は地震雷火事親父って怖いもの一つにランキングされていた呪みの利くオヤジの存在が無くなったのも原因の一つでは無いでしょうか。

コロナも然り、政府も自治体も面倒な事は頼被り対策も曖昧で根拠の無いマスク不要発言、口車に乗せられ、どこの観光地やイベント会場も人で溢れ特にマスクの付けない外国人観光客マナー違反の遣りたい放題、コロナ化は過去のものでは無く水面下ではかなり深刻に進行拡大している現実、国民に寄り添うのを止めた国には頼れず自分の身は自分で守らなきゃ今、そんな混沌とした時代ですが一時も早い平和で穏やかな世の中を願ひ、また睨みの利く存在感の有る雷オヤジの復活を願って心静かにご先祖様に手を合わせましょう！



盥で行水する子供

洞林寺公式ホームページ開設しました

洞林寺の公式ホームページを開設しました。

洞林寺の歴史、境内や伽藍、墓地や永代供養塔についての説明のほか、新着情報を随時知らせよう努めます。現在準備中ですが、護持会会報のバックナンバーも閲覧できるように致します。

公式ホームページのアドレス

<https://www.dorinji.com/>

「洞林寺 仙台」で検索すると公式HPが表示されます。

スマホでQRコードをスキャンすれば、公式HPにアクセス出来ます。

